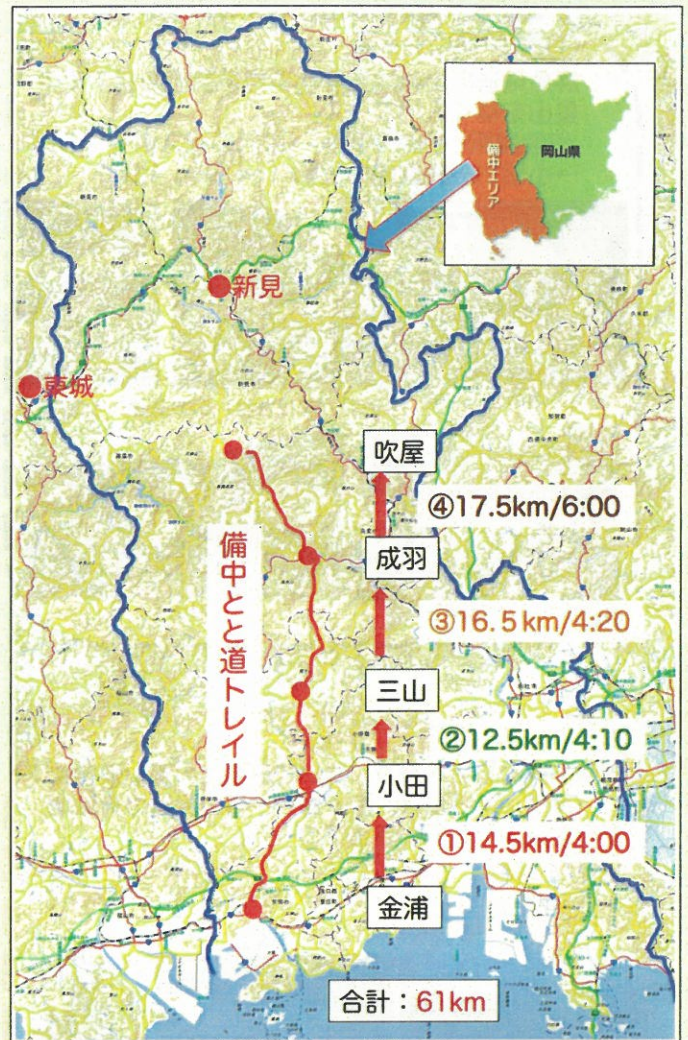


日本ユネスコ協会連盟 「プロジェクト  
未来遺産 2023」登録証



### かつてのとと道運送システム

魚仲仕は、夕方笠岡の金浦魚市場で競り落とされた鮮魚を丸い竹籠に入れ、天秤棒の両端に吊るして夜の9時に出発。重さは一人当たり40kgほどもありました。

5～6人が一組となって、小田、三山、成羽を経由、途中6ヶ所ほどの中継所で次の運送人へと引継ぎながら運び、都合12時間、翌朝の9時には吹屋に到着しました。

道は吉備高原の山坂をいとわず、ほぼ一直線に北上する厳しいルートでした。魚仲仕の賃金は一般の日雇い賃金の5倍ほどあったそうです。明治25年頃には、通常賃金4銭に対し20銭、三山から成羽へは26銭+米3合分の現金だったそうです。

### とと道の歩き方

とと道は全長60km。一気に歩けば18時間くらいかかります。いずれ「一気歩き」に挑戦するとしても、まずは4つのコースに区切って、公共交通機関を使い、気の向いた折に、気の向いたコースをぶらりと歩くことをおすすめします。

季節は運動不足になりがちな(草刈りの済んだ)晩秋から初夏(12～5月)がおすすめです。以下各コースの概要をお知らせします(詳細はガイドブックをご参照願います)。

推進協議会では会員用に毎年4回、バス+ウォークのハイブリッドウォーク大会も実施しています。HPで開催日をご確認ください。